

森正一

もりしょういち

活動報告 第29号

発行日 平成30年7月17日 / 発行者 もり正一後援会 (討議資料)
連絡先 館山市八幡277-19 / TEL 090-2652-3218
ホームページ <http://www.awanew.com>



森正一 プロフィール

- ・昭和42年5月17日生まれ、50歳
- ・北条小、三中、安房高、東北大学工学部卒
- ・館山市議会議員、現在2期8年目
- ・総務委員会副委員長
- ・たてやま21・緑風会会派代表
- ・北条FC代表、館山市サッカー協会監事

はじめに

平成30年第2回定例会が6月8日から6月27日までの会期で開催されました。行政一般質問では「安全・安心で充実した学校・学習環境の整備」、「子どもの季節性インフルエンザ予防接種の助成」、「文化・スポーツ活動の活性化」などについて質問しました。「安全・安心で充実した学校・学習環境の整備」に関する内容を中心に、その他とあわせてご報告させていただきます。

行政一般質問 1

質問・回答要旨・所感



被害想定調査を実施すべきではないか？

A 2. 平成26年度に実施した耐震診断の判定が出ていることから、改めて調査を実施する予定はない。過去の調査では、高さ方向では二階部分、方角的には南北方向の地震動に弱いということは把握しているが、どのような揺れ方が起こるかで状況は変わる。壊れ方について一概には言えない。

Q 3. 耐震化が完了するまでの一時的な措置として、現第三中学校校舎の使用を中止し、生徒を第一、第二中学校に分散して通うようにできないか？

A 3. 教職員の生徒の掌握、保護者等の心情を勘案すると、現状では難しいと考えている。

また、現在、生徒・教職員の安全を考慮し、避難方法の対策と併せ、他の安全対策も視野に入れて検討している。

Q 4. 最適な避難方法の検討状況について

A 4. 訓練は繰り返し行うことで効果が表れるものと認識していることから、毎年実施している、地震・津波・火災を想定した訓練を引き続き実施する。

昨年度は、毎年実施している避難訓練と併せ、千葉科学大学から講師を招き、「災害の心理学」をテーマに防災教育を実施した。今年度は7月に学校安全教育研究所の職員

安全・安心で充実した学校・学習環境の整備に関して

その1・第三中学校校舎の耐震化に関して

Q 1. 第三中学校校舎の耐震化の進捗状況は？

A 1. 校舎の建て替えに向け、引続き有利な財源確保に努めている。事業の進捗としては、公募型プロポーザル方式による基本設計業務委託の公募を開始し、6月末までに契約締結の予定である。現時点での最も早い完了時期としては、平成34年4月開校を予定している。

Q 2. 大規模地震が発生した際の、校舎の

を招き、「大規模地震に対する防災・減災の在り方」をテーマに、職員を対象とした危機管理に関する指導を受けるとともに、生徒・保護者・教職員を対象とした防災に関する講演会を実施する予定である。



その2・将来的な学校統廃合について

Q1. 教育委員会として、現在、学校の統廃合に関してどのような考えを持っているのか？

A1. 学校では、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせることが重要である。そうした教育を十分に行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されるよう、一定の学校規模を確保することが重要であると認識している。

こうしたことから、将来的な児童生徒数、今後の教育環境の整備を見据え、将来的な学校施設の適正規模について検討するため、今年度、学校再編調査検討委員会の立ち上げを予定している。これまでの学校再編の経過も踏まえ、検討委員会の検討結果や保護者・地域からの意見を伺い、将来的な学校施設の適正規模について検討していく。

《所感》平成26年度初めに耐震不足が判明してから4年以上が経過し、ようやく建て替えを前提とした基本設計が始まりました。しかしながら、現時点での最も早い耐震化の完了時期は平成34年4月開校とのことであり、生徒たちや教職員は、少なくとも4年近く、危険な校舎で過ごさなくてはなりません。教育委員会は「どのような破壊が起きるのか」わからないとしており、それでは最適な避難方法を検討できません。また、耐震判定から4年が経過し、その間に震度4クラスの地震を経験しており、耐震強度が更に低下している可能性もありますが、このことについても検討するつもりはありません。更に、「避難方法の対策と併せ、他の安全対策も視野に入れて検討している」としていますが、具体的な対策はまだ何も決まっていません。このような安全が担保できない校舎を使い続けることに疑問を感じ得ません。一中、二中、あるいは他の安全な施設に移るべきだと思いますが、これについても否定的です。

建て替えを急ぐとともに、耐震化完了までの期間、子どもたちが安全・安心に学習できる環境を整備するために、できることは全て行うよう強く要望しました。一番大切なのは子どもたちの命なのです。

《所感》今定例会で出された補正予算の中に、「学校再編検討委員会」の立ち上げに要する費用が計上されており、今後の学校再編に関する調査検討が9月から始まります。

「第三次館山市行財政改革方針」、

「館山市公共施設等総合管理計画」に基づき、学校再編を検討していくことですが、答弁にあるように、児童生徒のことを第一に考えて検討がなされることを期待しています（私自身、検討委員会の委員になる予定）。

また、検討委員会からの答申を受け、教育委員会において、具体的なスケジュールを含めた、統廃合に関する学校ごとの個別計画を策定することなので、2010年に策定した「館山市学校再編基本指針」のように、実効性・具体性の無い計画にとどまらないことを期待しています。

行政一般 質問

2

質問・回答要旨・所感



子どもの季節性インフルエンザ 予防接種の助成に関して

Q1. 昨年度のインフルエンザに罹患した生徒数は？ 児童生徒のインフルエンザ予防接種の有無と罹患状況の調査結果は？

A1. 小学校で910名、中学校では208名、合計1,118名となっており、前年度の2倍以上、学級閉鎖は、前年度の3.7倍であった。また、幼稚園では97名、こども園で135名、保育園で56名、合計では288名、

こちらも前年度の2倍以上であった。

また、インフルエンザ予防接種の有無と罹患状況の調査は実施していない。今後、小中学校における健康診断等の機会を利用して、状況を確認するなどの検討をしたい。

《所感》近年、インフルエンザ予防接種は予防効果があるという論文が多数出されており『インフルエンザ診療ガイド2017-18』には、「学童集団接種により、高齢者が間接的に守られ、死亡率が抑えられていた」、「幼児の死亡、学級閉鎖日数が抑えられていた」とあり、また「学童集団接種の中止は、社会に深刻な影響を及ぼした“大失策”であった」とも書かれています。

このようなインフルエンザ予防接種の有効性に対する知見の変化と共に、年々、子どもに対するインフルエンザ予防接種の費用を助成する自治体が増加しています。

子どもたちをインフルエンザによる苦しみから守り、子育て世帯の経済的支援、そして、高齢者への感染の可能性を抑えるという観点から、子どもに対するインフルエンザ予防接種費用の助成について、これからも強く要望していきます。



その他

【1】 常任委員会

議員になってから7年間にわたり文教民生委員会に所属し、健康福祉・国民健康保険などの各種保険・医療・学校教育・生涯学習・社会体育・文化財などに関する審議や調査・研究に係って来ましたが、今回、初めて総務委員会（副委員長）に所属することになりました。

所属は変わりましたが、文教民生委員会で学んだ知識や経験をもとに、引続き館山市の発展と市民福祉の向上のため、全力を尽くして参ります。



【2】 スポーツ観光の推進について

以前にも少年サッカーを一例としてご紹介しましたが、春・夏・冬の長期学校休業中、館山市を含む南房総地域での各種スポーツ団体による合宿や大会開催に伴う宿泊が増えてきています。この夏休みにも小学生から高校生まで、県内の強豪チームなどが主催する、宿泊を伴う大会がほぼ毎週行われる予定であり、北は青森県弘前市、南（関西）は兵庫県三田市などから、多くの選手・指導者・保護者が館山を訪れます。サッカーに限らず、長期休業期間中には、剣道・バスケットボールなどの関東・全国規模の大会やフェスティバルなども行われており、合宿や大会に伴う宿泊がかなり多く、宿泊施設の確保が困難な時もあります。また、長期休業中に限らず、土日や祝祭日を絡めた3連休なども同様の状況です。

しかしながら、社会体育施設が不足して

おり、合宿などを断念するケースもあり、市の遊休地や施設などを整備できれば、もっと来訪者を増やすことができます。

ワールドカップにおける日本代表の活躍、2020年東京オリ・パラ効果で、地域経済の活性化に対してスポーツ観光の果たす役割はますます大きくなっていくのではないのでしょうか。引続き、スポーツ観光の活性化のための要望・提案をして参ります。

終わりに



財政状況の厳しい館山市におきましては、第三次行財政改革方針に基づき、歳入の増加と歳出の削減に徹底して取り組んでいかななくてはなりません。目前には、「第三中学校の耐震化」、「新給食センターの建設」、「ごみ処理施設の大規模改修」、「船形バイパスの整備」などの大型事業が控えており、市民の皆様におかれましては、「この先、これまで通りの市民サービスが受けられなくなってしまうのではないか」、「夕張市のように財政破綻してしまうのではないか」、と不安に思われているのではないのでしょうか。また、行政や議会に対して、不満と怒りをお持ちのことと思います。

そのような不安を取り除き、市民の皆様が安心・安全に暮らしていけるような館山市を目指し、市民に寄り添った議員活動、議会活動を展開して参ります。

これからも市民の皆様のご意見・ご要望を市政に反映して参りたいと考えておりますので、ぜひ皆様のお声をお聞かせください。